

教育
広報

あきる野の教育

2019(令和元)年7月1日 編集・発行 あきる野市教育委員会 〒197-0814 あきる野市二宮350 ☎042(558)1111(代)

地域と歩む新時代のあきる野の教育



令和の時代と不易流行

あきる野市教育委員会
教育長 私市豊



新たな教育広報「あきる野の教育」発行に当たりご挨拶を申し上げます。教育広報「一房のぶどう」につきましては、平成16年7月から31年3月までの15年間で通巻45号を刊行いたしました。この度、新しい時代「令和」の訪れとともに、一新することいたしました。今回の刷新では、紙面サイズと文字の拡大、カラー印刷など体裁のほか、内容についても、児童・生徒の保護者はもとより、地域の方々にも関心を持っていただけるよう工夫を凝らしたいと考えております。

教育で大事なことは「不易流行」と言われています。大きく変わる「流行」を考えると、教員の働き方改革の取組、来年度から適用となる、新学習指導要領による小学校の英語科とプログラミング教育の実施、中学校のクラブ活動の在り方、学校と地域の連携協働を目的としたコミュニティスクールの導入、様々な分野でのAI(人工知能)の普及などが挙げられます。特に、AIは予想がつかないスピードで普及するものと思われま。

その一方で、「不易」としての変わらないもの、変えてはいけないものがあります。人と人とのつながりや世代間の交流、地域の伝統文化や伝統芸能、また、学ぶ姿勢、未知に対する興味や挑戦、思いやりの心、挨拶の大切さ、お年寄りを大事にすることなどです。

5月に郷土芸能連合会の総会がありました。各地域のお囃子や獅子舞が、次々に舞台上で披露されました。その場面を拝見しながら、役員の方々と、これか

らの子どもたちに必要な教育について話し合いました。お囃子などの伝統文化を通して、子どもたちが夢中になれる、大人の指導を受けながら技を磨く、多くの人と関わり力を合わせて事を成し遂げるなど、生きた教育を学んでいくと得心したところです。

60歳以上の市民が学ぶ場に「寿大学」があります。毎年、800人以上の方が5月から12月まで、歴史や文学、健康問題、防災、音楽や演劇など、幅広い分野を学びます。開講式での受講生の目は、やる気満々、キラキラと輝き、圧倒されるものでした。人間はいくつになっても、好奇心を持って前向きに挑戦することが大事だと考えています。役員の方が、来年はもっと講座数を増やしたいとの思いを熱く語られました。この熱意に応え、講座等の充実を図り、受講生も増やし、心身ともに健康な高齢者が、もっともっと増えることを願っております。

心優しく逞しい「あきる野っ子」を育てる教育は、家庭・学校・地域と教育委員会が連携して取り組むことによつて実現するものです。学校教育では、一人一人の特性を大切に「特別支援教育」を、改めてあきる野の教育の原点として進めてまいります。保護者の皆様、そして地域の皆様、共に新しい時代に生きる子どもたちを育てていきたいと思います。「令和」という新しい時代の中で教育を進めるに当たり、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。